

会議録

会議の名称	第4回加東市滝野地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成28年1月19日(火) 19時00分から20時36分まで
開催場所	滝野中学校 2階 図書室
<p>議長の氏名 (委員長 芹生一二)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】 13人</p> <p>芹生一二委員 小林喜代治委員 西山豊委員 甲山友和委員 時井秀人委員 藤川大介委員 阿江正幸委員 藤川貴博委員 黒崎泰則委員 藤原哲史委員 浜口大介委員 尾崎高弘委員 小林美穂委員</p> <p>【欠席委員】 0人</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>【教育委員】</p> <p>大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二 同 主査 青木敢也</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>【議題】</p> <p>(1) 地域の小中一貫教育について (2) 今後の予定について</p>	
<p>【会議結果】</p> <p>(1) 施設の形態、建設候補地及び整備時期について、審議しました。 (2) 教育委員会の決定事項の報告方法について、審議しました。</p>	

【会議の経過】

1 開会

2 協 議

(1) 地域の小中一貫教育について

(委員長)

それでは、協議事項の1点目ですが、地域の小中一貫教育についてということで、この件につきましては、これまで東条地域、社地域の小中一貫校の候補地、また施設内容、形態等を教育委員会の方ではある程度、計画されていますが、滝野地域につきましてはそのような具体的な計画がまだされていないということから、昨年12月3日、第3回の小中一貫教育推進協議会の中でありましたように今回改めてこの候補地、形態等を御説明願いたいとこのように思いますので、事務局、よろしくお願ひしたいと思います。

〔事務局説明（資料①～③）〕

(委員長)

昨年の12月3日に皆さん方から御意見をいただき、それをベースにして今回全体的に図示したところでございます。御存じのように1月13日に神戸新聞のほうで発表されておりますとおり推進協議会は今回でもう最後ということ。滝野地域の中でこの全体的なシミュレーションの内容をまとめるとなれば、短期間で時間的には非常に難しいのではないかと思います。推進協議会として何らかの回答をもっていきたいと考えていますので、各委員さんに御意見を賜って、その意見を参考にまとめていきたいと考えています。一応、1月14日に社地域が協議されていますし、26日に東条地域がされるということで、当地域については2つ目の最後の推進協議会ということ。それで、考え方としますと、以前からいろいろお話を聞いており、計画の位置です。ものを建てるということになれば、どこの区域が良いかという内容の検討と、また、小中一貫校の施設形態は一体型が良いのか、併設型が良いのかというまとめ、それと今後どれくらいの年次に滝野地域の整備計画を進めるかという点に絞って各委員から御意見をいただけたらありがたいと思います。

(委員)

場所については、今、初めて案も示されて、この地図では滝野中学校が大体、滝野地域の真ん中近くにありますので、そこにつくるというのが楽になるということなのでしょうが、ただ、初めての提示ですので、ここでしましようと言って決めるのはどうかというふうに思います。これについては、やはり住民の意見等も聞く必要があるのではないかとこのように思います。

それから、一体型か併設型かという形態についてですが、私個人は一体型より、併設型が良いのではないかと思います。滝野地域は南と東と2つ小学校がありますし、比較的滝野地域としては中学校、小学校の教育がうまくいっているのではないかと考えております。ですから、慌てて一体型の学校をつくる必要はなく、小中一貫教育を進めるにしてもよく考えて進めたほうがよいのではないかと思います。私は、慌てて滝野地域を早目にするなどという必要性はないと思います。

(委員)

場所については、今、資料を初めて見ましたが、地域的にも、移動を考える上でも今ある中学校近辺がベストなのかなと思っています。一体型か、併設型かは、私が以前から気にしていることで、やはり中学生の不良の子がいると小学生の小さな

子は萎縮してしまうのではないかという問題もありますので、今現在でどちらが良いかということは答えかねます。

(委員)

場所に関しましては、やはりこの近辺が妥当かなというふうに思っております。当初、滝野の小中一貫教育校は平成40年を目指しておられたので、先ほどの意見と同じで慌ててする必要はないと思います。教育委員会としては、よく状況も見ながら進めていただけたらと思います。やはり失敗できない案件、大事なことです。いろいろなことを考えながら決めていただけたらと思っております。

(委員)

場所は、全体の地図で見ても滝野中学校は滝野の中心くらいになり、曾我も高岡も滝野中学校から離れているので平等というようなところはこの辺になるのかなというのがあります。スクールバスの対象がどこまでかというところでは、この図だけで見ると、高岡もスクールバスの対象区域に入っているのも助かるという思いはありますが、高岡寄りでも河高はスクールバスではないのかと少し申し訳ない気もします。時期的なものは、皆さん、そんなに急ぐ必要はないと言われていて、私もそう思うのですが、高岡では同級生があまりいないので、このまま小学校に行ったときに同じ学年の子が何人いるのだろうかということが現実的に心配もしているところではあります。ただ、現状、滝野南小学校の行事等を見させてもらうと、子どもの数がそんなに多くはない中で、すごく身近に子どもと触れ合えるといえます。運動会をするにしても近くで見ることができず、そういうところではすごくいいなと感じるところではあるので、本当に今の滝野南小学校の良いところ、そのような雰囲気が続けることができるような感じで、次の小中一貫教育があればいいと思います。他には、中学生の子たちからの悪影響というの、確かに心配することではあるかと思う中で、どこかの成人式に小学生の10歳の子を参加させることで、乱れた行為を子どもに見せられないということで良い影響もあったということについて、ニュースで聞いたので、小さい子がいることで良い模範にならないといけないという気持ちになれることもあると思います。ただ、皆が皆、そうはいきませんので、良いところと悪いところが、やはりあるのかなと思います。

(委員)

案としていただきましたが、今、この時点でどうこうは言えない状態なので、まずは場所を決定し、それに対するたたき台を早くつくることが一番早いかなと思います。案としてはいただいています。想像でしか話できませんし、ここにしますと言ってくれたら逆に話も進むと思います。

(委員長)

場所ですが、大体中心の位置というのは問題はないですか。

(委員)

そうですね。それが一番ベターだと思います。でも、一応、ここではないので。案でいただいています。今の時点でこれをどうこうという意見は私にないです。

(委員)

私の意見ですが、場所はやはり滝野中学校周辺が一番自然かなとは思っています。南小学校も東小学校も位置は動くわけですから、小中一貫校にするなら、滝野中学校周辺が一番かと思っています。併設型か一体型か、どちらかということであれば、私自身、先進校視察に行ってその印象が強かったので、十分な施設をつくった上で一体型にすべきと感じています。南小学校も東小学校も滝野地域は現在すごく良い学校教育をされているという感じがありますが、推進協議会の話の中で、現状よりさらに良

い学校、新しい学校文化をつくるという教育委員会の強い思いが感じられたので、新しい学校で良い教育をしていくという思いならば小中一貫校を進めてほしいし、先日視察に行った中では小中一貫校というのがすごく良いと感じたので、是非進めてほしいと思います。いつ頃かというのは、平成40年は、やはり大分先と思いますので、ここに書いてあるとおり小中一貫校を進めるなら、加東市は1つと考えて期間は圧縮し、もちろん期間の長さというより、濃密な準備をしていただいて進めたらということを感じます。

(委員)

平成40年という形で出たせいもあって、他の地域に比べると滝野地域は、保護者を見ていまして、小中一貫について、関心としてはまだそれほど高まっていないように思います。ですから、そういった方にも考えていただく、土俵の上に上がっていただく上でも、場所はこのあたりになってくるとは思いますが、まず場所を考えるというようなことから一緒に考える土台の上に上がっていただいたらというふうに思います。それから、併設型と一体型ですが、私は絶対、一体型にすべきであると思います。今、滝野東小学校は各学年100名近く子どもがいますが、本当に良い規模の学校だというふうに思いますし、この学校を1つのものにしていくということになると、やはり今ある学校以上のものをつくっていかないといけないと思います。そのためにはやはり一体型で小中を含めて9年間という学びが1つのところでできるというのでなければ、今の3クラスの規模の学校を超えるようなものはできないような気がします。ですから、そのことについては一体型を強く求めたいというふうに思います。時期については、これから特に9年間のカリキュラムというのが非常に重要になってくると思いますので、そのあたりをしっかりとすることが大事かと思えます。

(委員)

たくさん意見が出てきて、かぶらない違う意見は難しいです。あえて言うなら、前に東条地域、社地域、滝野地域、最初にどこからするかというのは何を視点にするかといったら、やはり必要性で順番を決めていくというような話をされました。それを考えると、私は順番として、滝野地域の必要性はまだ低く、やっていく必要がないのかなというふうに思っています。しなくてもよいということではなくて、順番としてね。もっと安全的に、それから人数、環境的に先にしなければいけないところがあるように思いますので、滝野はそんなにする必要はないのかなと思っています。それから、加東市内の3地域によって違う学校形態が長年続くというのがよろしくないの、ある程度詰めてつくったほうが良いのではかというのがありますが、一挙につくってしまうと、元々、金銭面で難しいでしょうけれども、そんなことはしないでやっぱり1つずつ丁寧につくっていったら、言い方悪いかもしれませんが、1つ目につくったノウハウを生かして改善を重ねて次の学校をつくっていくというスタンスも私は十分にありだと思うので、同じ環境を全ての地域で求めないでつくっていったらどうかと思っています。私も一体型が良いと思います。それから、場所ですが、理解不足かもしれませんが、赤と青と緑のラインがあって、建てようというのはどの辺りのことを言っていますか。滝野中学校あたりのことですか。

(事務局)

そうですね。

(委員)

広域公園の中はつくれないということですね。

(事務局)

県の指定公園となっておりまして、原則として、公園内での多目的利用の建物が

できません。学校は、公園内ではいわゆる多目的ということになってしまいますので、原則駄目だというふうにはなっています。全く駄目かというのは今からの調整もありますが、ハードルは高いというのは十分承知しております。

(委員)

そういうことを聞いた上で、私の本当の個人的な意見です。私は高いところに学校があるというのが大好きです。ふるさとを見晴らしながら授業をする、運動をする、仲間と集うのは本当に気持ちの良いもので、高いところに学校があるのが好きです。

以上です。

(委員)

学校といいますか、教育というのをまず考えたら、確かに人数が少なくなってきて、その少ない人数を教師が教えれば、学習面での教育効果があがるだけかもしれませんが。一方では、教育というのは、長い目で見たら仕事をして一生を終える中で考えてみると、人との関係性、つながりとかそういうふうなことがなければ生きていくということではどうなのかと思ったりもします。だから、学習と人間同士のつながりがあって生活していくというふうな2つの側面から見れば、この小中一貫教育というのは加東市の現状を考えたら今後どうしていかなければならないかというふうなことも思ったりもします。また、委員長のほうから言われた場所ですが、これは私がどうこう言うことはありませんが、教育委員会で言われていたつながりということであれば図書館が近くにある、地域の人も図書館を利用する子どもたちも利用する。あるいは、滝野中学校でも数年前までは文化会館で文化祭をしておりましたが、楽器を持っていったり、生徒指導上のことで体育館でするようになりました。ただし、体育館ですれば手狭で、保護者の方に椅子を十分に置いて見ていただくとかということがままならない、あるいは展示場所に困るなど、いろいろなことがあります。そういうことで言えば、地域の人とのつながりということであれば文化会館などが体育館や運動施設とは別に学校の近くにあるということも必要かなとも考えたりもします。それから、2点目の一体型か併設型ということですが、やはり教育効果を上げようということであれば併設型では絶対駄目だと思います。少し道が離れていて、校舎が引っ付いていたとしても教職員の交流というのは非常に激減すると思いますし、授業で教育委員会で言われている乗り入れ授業ということからしても一体型でないと効果は上がらないと思います。それから、3点目の年度ですが、これも地域の皆さんの御意見だと思います。ただし、加東市全体を見れば子どもの減少ということからすれば、また、つながりということを考えればある程度短いスパンで加東市が一体型の小中一貫校をつくっていくということが望まれるのではないかというふうに思います。

(委員)

滝野中学校のあたりで小中一貫校をつくるとしたらという設定のもとで考えてみて、この3キロ圏内の円を見たときに、稲尾や曾我は非対象なので歩いていくというふうに今言われましたが、今、稲尾はすごく少ない人数で通っています。当然、曾我の子どももすごく少なく、稲尾に関して言えば、一番端の子は公民館があるあたりの子より15分早く集まっていて、15分長く歩いてきています。滝野東小学校まで35分くらいと考えて、滝野中学校までさらに同じくらいあるので、1時間近く歩いて通うということで、それも人数が少なく、下校の面等ですごく心配ということを考えます。だから、できれば稲尾や曾我の子たちの人数の面を考えたら、ここはスクールバスが良いのかなということを考えました。もう一つ、一体型か併設型かということで、私も一体型が良いと思っています。いろいろな先進校を見に行っても、やはり一体型のほうが効果が上がっているということだし、小学校、中

学校の垣根を越えてお互いに子どもたちが交流したり、先生方が交流することによって教育効果が上がると思うので、一体型で進めていけるようにしていけたらというふうに考えました。

(委員)

滝野地域の小中一貫推進協議会というのは元々、研究会で春から話し合ってきた中で、社、東条、滝野地域の人の意見を聞きたいということで、10月末くらいに今回のメンバーで集まっていたいただいて、急遽という形で皆さん、何の心づもりも心構えもなく今回4回目を迎えているということで、特に若いPTAの保護者には突然の話でもあって、とんとん拍子に10、11、12、1月と、3か月か4か月の間に意見交換していただきながら方向性を出していこうという話できたわけですが、やはりいろいろな意見が出てきて、同じ方向に向かないのは当たり前ですし、今回集まっていたいただいてこのメンバーは、PTAの保護者の方と先生がほとんどです。地区の代表として2人の区長さんに出てきていただいています。滝野地域の意見、方向性として出していくには、実際、荷が重いのではないかとということも若干思っています。こういった場所の件にしても一体型、併設型ということにしても、できればもう少し人員の幅を広げていただいて、先ほど稲尾の話が出ていましたが、各地区の区長さんや、13地区ある滝野の、せめて代表の各区長さんにも同じような形でこういった意見を出させていただいて、そういったものも集約していきながら意見を出していきたいということを最初から思っていました。個人的な意見を言わせていただくと、施設の形態に関しては春からいろいろ視察もさせていただいて、本当に素晴らしい施設の学校を見させていただきましたので、生徒の様子等も、中学生と小学生、まじり合いながら中学生も穏やかな感じで教育を受けているのではないかとということで、本当に一体型のすごく良いところを見させてもらって、できれば一体型で、本当に良い学校をつくっていただきたいというのが私の個人的な希望です。施設の候補地については、多分皆さん行ったことあると思うのですが、私、五峰山の中腹にある駐車場に行くと、あの上から滝野地域を見ると、高岡や河高は見えませんが、ぽっかりと良い感じにあいているところというのは、今回地図で示していただいたように滝野中学校周辺が土地的にはきれいにあいているんですね。質問ですが、市街化区域というのは学校を建設できないのですか。

(事務局)

市街化区域は学校を建設することができます。調整区域の学校については、その区域に住んでおられる方の学校というふうな位置付けになっております。ただ、今回、小中一貫教育でもあり、全体を見渡して集まってくるという前提でもありますので、調整は十分可能と思っております。

(委員)

ただ、上から見ると、滝野も結構、町で、割と住宅地が密集しているので、そこに広い土地を確保するとなると非常に困難ですし、校区全体をこのように示していただくと本当にわかりやすいのですが、今の滝野中学校と旧滝野庁舎あたりが中心となって、どこから来るのにも便利は良いのではないかとというのが個人的にあります。先ほどおっしゃっていたように、小学校1年生や2年生の子が例えば3キロ、4キロ歩いて集団登校できるかということ、少し難しいような気がします。ただ、その辺のことはこれからまたいろいろな地域の人で、知恵を出し合えば解決していける問題だと思います。実際に小学生が歩いているのに、中学生が自転車で来るのかとか、いろいろな細かいところの意見はこういった会をこれからどんどん広げていって、いろいろな人の意見を集約していけば解決していけることだと思います。場所的にはやはりこの滝野中学校、滝野庁舎、このあたりの滝野のちょうど中心となる場所ぐらいがベストではないかと個人的には思っております。

最後に、整備の時期については、前々から多分必要性ということで、まだ滝野は非常に人口に恵まれていて、そんなに少数のクラスになっているところはないと思いますので、今後のことを考えると東条地域であったり、社地域の鴨川であったり、本当に困っているところからしていくのが妥当だとは思いますが、滝野地域にしても特に南小学校も人数は減っているでしょうし、東小学校にしてもおそらくこれからどんどん増えていくということはまずないと思いますので、将来、10年、20年、30年を見越していくのであれば、小中一貫にしていって新しい教育、新しい学校というものをつくっていただきたいというのがありまして、ゆっくりしていけばいいのではないかと、早くしてほしいという意見が半々だったと思いますが、費用が許すのであれば、できれば時間を詰めていただいて、加東市として同じ方向を向いて、同じ教育を、同じ形でスタートしていけたらいいなというのが個人的な意見であります。

(委員)

この地図を見せてもらって、今、思いついたことは、歩いて3キロとっていましたが、直線で3キロとなっており、実際に子どもが直線ではまず歩けないので、できれば通学路の範囲での3キロ圏内というふうにお考えいただいたほうが良いのではないかとということです。川を渡るとか、そういうところも出てくると思います。非常時、災害時のこと、それから登下校、毎日晴れとは限りませんので、そういうところも精査しながら検討していただければと思います。現在の中学校の位置では避難所にならないという可能性があるという話が少し出ていたと思いますので、その辺は新しい学校を、全て建てかえればクリアできる問題なのかどうかというところもあわせて審議いただきたいというふうには思います。

(事務局)

実際、今、滝野中学校は避難所には指定できない状況になっていますので、ここに小中一貫校が建ったとしても、おそらく避難場所としては指定できないと思います。ただ、新しい学校をつくとすれば、例えば上げて建てるとか、いろいろな対策はできると思いますが、避難所としては難しいです。

(委員長)

それは、河川改修との関連があり、クリアできないのでしょうか。

前回に、滝野地域でシミュレーションをするということで、滝野庁舎や、この辺りが本当の中心かなという話が出ていたと思います。ただ、中学校周辺は農振の用地の問題があり、また市街化区域の中での用地取得等、クリアしなくてはならないいろいろな問題が出てくると思いますが、考え方とすれば中心部に位置するというのはいいかと思います。ただ、今、委員が言われたように、3キロ圏内で本当に子どもが歩いて通学できるかなというのもあり、今からその辺の全体的な話が出てくると思います。それと、地域代表という形で推進協議会に入らせていただいて、今、4回目になるのですが、4か月程度の推進協議会の中で、住民への説明、ある程度の推進方法を本当にもう少し考えないと、いろいろな問題が出てくる可能性もあるので、これからの問題だと思いますが、考えていただきたいというふうに思います。

それと、教育面から見たら一体型が良いと思います。一番の問題は財政ですが、いろいろな問題がある場合は併設型が良いかと思いますが、やはり一体型が一番良いかなと私は思います。ただ、加東市も裕福な町ではないから、そこら辺の問題をクリアしていけるか、教育委員会の中ではある程度の財政計画というものは確認されるかと思いますが、社地域、滝野地域、東条地域で一体型に持っていくということは、財政計画のローリングを考えていかないと苦しいかなと思います。小中一貫校の整備に対しての補助金というのはあるのですか。

(事務局)

今回、学校教育法が改正され、それに伴って小学校、中学校と同じように小中一貫校を建てる場合でも2分の1の補助はあるというふうになってございます。

(委員長)

それと、小中一貫連絡協議会は兵庫県が中心になってやっているわけですか。現実にも、小中一貫教育をやっているのは小野市ですか。

(事務局)

小中の教育を連携させるというところから、連携をするなら一貫に向かおうということで、小中一貫教育というのは、どこでもやっています。ただ、一貫に向かう形ですが、例えば、小学校と中学校が300メートル程度離れていて、交流しにくいので、河合小学校の6年生と担任の先生を河合中学校に移して、中学校で一緒にやりましょうというのが小野市の小中連携、一貫という話であります。また、加東市でも小中連携という形で、例えば学校で交流をしたり、小学生と中学生が交流したりということはやっていますが、日常的にはできません。例えば元々、小学校と中学校がたまたま隣同士で建っていたという環境であれば日常的に交流しやすいですし、今回、視察に行った東山開晴館、凌風学園は教育特区という制度でされています。学園長は1人ですが、法律上、学校は別々なので、実は校長先生は2人いらっしゃいます。そういった取組を先進的に進めている学校は兵庫県にはありません。要は、私どもがモデルにしております高松であったり、広島であったり、京都は最初に特区という形で始めて、研究が重ねられてきて、教育効果が高いというのが認められたので法が改正され、小中一貫校が法律上明示されたということになります。

1月13日の県の連絡協議会というのは、初めて兵庫県教育委員会が小中一貫教育について、各教育委員会の理解を深めるということでやっています。今、完全に小中一貫教育をやっているのは、姫路市の白鷺小、中学校で施設併設型です。施設が一体に近いのはそこぐらいです。今、県の話が出ましたが、情報を広めて、小中一貫教育の良さなどを広げていって全国の動きにしましょうという小中一貫教育全国サミットというのが1月29日に奈良県であります。全国の組織で任意団体の小中一貫教育全国連絡協議会という連絡会を、教育委員会や学校が中心になってつくっていて、毎年、持ち回りでサミットを小中一貫校で開催します。奈良も施設一体型や併設型でやっています、見て来ます。兵庫県は、残念ながらそういった私どもが目指しているような小中一貫校というのは少し遅れているのかなというような思いがあります。

それと併せて、先ほど委員が3キロの話をしていただいたので、私どもが議会で説明させていただいていることをここで補足したいのですが、小中一貫校を建設するのも統廃合するというのも、結局、新しい学校を建てようということになります。それで、文部科学省が小学校であれば通学圏が4キロ以上は遠距離通学というような目安をつくっており、遠距離通学は何らかの形で児童の負担を軽減するべきとなっています。その負担軽減は、例えば、電車で行けるのであれば電車に乗りますが、結局、バス通学ぐらいしか考えられません。ただ、文部科学省が全部をバスにしろと言っている意味ではないです。集団で上級生が下級生を連れてくるというのは非常に教育効果が高いということは皆さんが御存じですし、それによって地域の方々が学校の子どもたちを見守るという、地域が教育に関わるということにはわかっていますので、例えば8キロを全部バスに乗せるのではなくて、6キロをバスにして、2キロを歩くなど、それはそれぞれ考えるべきということです。私どもが半径3キロにさせてもらったのは、3キロ圏内で円を書いていけば概ね4キロ以内におさまっているというのがあってシミュレーションしました。委員が心配されました稲尾や曾我もですが、稲尾や曾我の子たちが全部バスに乗って滝野中学校

の周辺に来るのではなく、例えば、旧の滝野東小学校までバスで来て、そこから小中一貫校まで皆で歩いてくると、そこで見守り等というのはできます。逆のことも考えられます。今までどおり滝野東小学校まで歩いてきて、そこからバスに乗ってくる。通学は、別に法律で決められていることではなく、概ねということで目安として決めてあるだけでございます。

(委員長)

何か他に御意見はございますか。

(委員)

滝野地域の小中一貫の推進協議会は、この4回目で最後ということで、併設にしたほうがいいのか、一体型がいいとか、いろいろな意見が出ています。今回集約した滝野地域の意見というのは、どのようになるのですか。

(事務局)

ここで、ある程度の意見をまとめていただければ、それぞれの地域の推進協議会ではこういう意見でしたということで教育委員会を開かせていただいて、場所、整備順序等は詰めていきたいというふうには思いますので、ここではある程度まとめていただいた意見をいただければ非常にうれしいです。

(委員)

例えば、早くして欲しいとか、最後が良い、一番が良いという滝野の思いを、この協議会のメンバーでぶつければよいということですか。

(事務局)

そういうことでございます。

(委員)

そういうわけなので、結構、責任重大かもしれませんが、ものを言えるのは今日最後になるので、何か意見ありましたら。これからまだまだ準備委員会など、いろいろな形でまた皆さんのお力をお借りする場面が多々出てくるかもしれないですが、今のうちにね。せっかく集まったメンバーですので、腹割って良い方向に行けるようにいろいろな意見を出していただければと思います。

(委員長)

短時間の間にこのようなシミュレーションが出てきたということで、いろいろ疑問点があると思いますが、その辺の御意見があれば聞かせていただいて、滝野地域小中一貫推進協議会の1つの案としてまとめていきたいとします。何か御意見はございますでしょうか。ここに疑問点があるとか、こういう内容を教えてもらえないかなどということがあれば、言っていただきたらと思うのですが。

なさそうなので、始めに言いましたように、この推進協議会は第4回目で、最終日になりますので、概ねのまとめをこちらの方からさせていただきたいと思うのですが、よろしいですか。

[異議なし]

(委員長)

前回、第3回のときからこういう候補地とか、形態とか、そういうのをどうするかということで資料を提示していただいたのですが、こちらから考えますとやはり現滝野中学校が中心で、この箇所がよいかというのが全体的な意見だと思うので、そういう方向でまとめていただく。そして、形態ですが、教育面から見ますと一体型が良いということも言われていますが、いろいろ諸事情があると思うので、併設型という話も出てきます。考え方とすれば、今後の教育から見ますと一体型が良いのかなと感じます。それと、整備年度ですが、加東市の小中一貫教育について素案があると思いますが、新聞紙上などでは東条地域、また社地域、滝野地域ということで出ています。その順序でもいいかなという考え方や、今後の全体的な

計画の中でもう少し早期にやってもいいかなという案もあると思いますが、今の状況からすると教育委員会が出されている計画案が良いかなというのが大体のまとめだと思います。それと、私も言いましたように、いかにこれから地域全体に、また保護者に説明をすることが大事だと思います。今、滝野中学校を中心にしたエリアがこうであるというような内容が滝野地域の中で全然提示されていませんので、その辺のキーワードをいかに早く今後、保護者、住民の方々に御協力を求めるような必要があると考えます。

それでは、各委員からの今日の全体的な意見は概ね以上だと思いますが、そういう方向で進ませていただいてよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

(委員長)

御意見がないようですので、そういうまとめでさせていただきたいと思います。

そして、少し話が出たと思いますが、今後どのようなスケジュールなのか、今後の予定などについて事務局からご説明をいただきたいと思います。

(2) 今後の予定について

〔事務局説明〕

(委員長)

どうですか。

報告は文章でよろしいか。わざわざ、また、寄っていただくより、よろしいですか。

(事務局)

ちなみに、社地域は委員長、副委員長に任すということで、先週終わっております。

(委員長)

改めてやらなくてもね。そういう方向で進めさせていただきますので、よろしいですか。そのかわり、後で文書をお送りします。

それと、今日、滝野地域推進協議会は一応最後になり、東条は26日ですよ。28日に定例教育委員会があって、その後の研究会は内容的にはどのようになるのですか。

(事務局)

教育委員会で決定するというのは変わりませんが、教育委員会も時間をかけてしっかり協議をしたいと思っておりますので、28日で決まるということは少し言いづらいと思います。

研究会で今、最終報告に向けて御協議いただいておりますのが、先行校の開校に向けて今後5年間でどのような組織をつくって、どんなことに留意してやっていくかということで最終報告をいただきます。その研究会での提言を受けて、実際の準備に入っていくということになります。だから、先行校が平成33年ということは決まっておりますので、どこの地域というのが決まりましたら、前に案として示しました準備委員会という内容の組織の設置をいただくということになります。

もう一点は、全ての地域の委員から御意見をいただいておりますが、地域住民や保護者への周知をやっていかなければいけないということで、この周知方法についても御提言をいただこうと思っております。いずれにしても、今年度中には決定をしますので、決定したことについては当然、即広報ということだと思っております。決定内容についても皆様方に報告した後、しかるべき時期に地域住民の皆さん方に広報したいと思っております。

(委員長)

3地域の推進協議会の委員長、副委員長への報告はいつ頃になりますか。

(事務局)

2月の中旬以降になるかと思います。

3 教育長挨拶

4 閉会

【資料名】

資料① 小中一貫教育推進協議会での主な意見（滝野地域）

資料② シミュレーション図（滝野地域）

資料③ 滝野中学校周辺図

平成28年3月11日